

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800989		
法人名	医療法人社団 藤岡会		
事業所名	グループホーム日々輝		
所在地	熊本県上益城郡御船町辺田見181-1		
自己評価作成日	平成30年9月2日	評価結果市町村報告日	平成30年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、笑顔・やさしさ・思いやりを理念に、穏やかに安らぎを感じ生活を感じ生活を過ごしていただけるように努めております。
一人ひとりに合った個別ケアを家庭的な雰囲気の中で行うことで、自宅で過ごしているような感覚で生活することができるようお手伝いさせてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「笑顔・やさしさ・思いやり」を基本とし、一日の流れは自宅での生活そのものであることを感じることができるホームである。甚大な被害を受けた熊本地震以来この2年間で入居者・職員ともに入れ替わりもあったが、ホーム内の日々の生活の様子は見守りを中心とした支援が継続されており、日常動作の一つひとつ、当たり前のことが当たり前に生活として行われている。職員間では入居者へ向き合い、事業所全体で意見を出し合い、職員全員で同じ方向を向き、一貫した対応・ケアへの認識が徹底し行われている。毎月職員から入居者家族へ状況報告の手書きの手紙が届けられ、皆で支える様子が窺えた。今後も家族・近隣とともに入居者を支え、穏やかに和やかな日常生活が送られることに期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスについて事業所の理念に基づき、年間の活動方針を作成している。年間の活動方針をホーム内で目に触れる場所に明示することにより職員間で理念を共有し実践につなげている。	「笑顔・やさしさ・思いやり」の理念は職員に浸透しており、ケアの基本とされている。その中でも理念を基本姿勢とした言葉かけの仕方・聞こえ方には日常的に職員同士が気をつけ合い、事業所全体で心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型サービスとして、できる限りの職員・利用者を地域の行事等に参加できるよう取り組んでいる。利用者はスタッフと共に買い物等行く等、積極的に外部等の接触をはかっている。	開設以来力を入れて来た地域との関わりは、一昨年の熊本地震をきっかけに更に強まっている。店長が運営推進会議のメンバーでもある隣接店舗へは日常的な買い物も継続しており、地域の中での生活が営まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常業務期間中や事業所会議の中で、よりよい認知症介護の在り方について話し合い、事業所主催の行事を地域に対して開かれた形で開始することにより認知症に対する理解や支援の方法について情報共有する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、その都度利用者の状況やケアの取り組み、認知症についての事例発表や勉強会を行い、一般の方からの意見も取り入れサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は行政・地域・家族と様々なメンバー構成とされている。特に地域からは隣接店舗からの参加もあり、入居者と地域で共に暮らし共に支える姿が見られる。会議ではテーマを持った勉強会等も行い、認知症啓発の機会ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、主任を中心に事業所の実状やケアサービスの取り組みについて町と密接に忌憚なく意見を交わしている。	日常的に連絡・報告を行い、また相互の行き来により連絡を取り合い意見を交わしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成、閲覧に供し身体拘束廃止会議を隔月開催し、身体拘束のみならず不適切なケアを予防するよう努めている。	「身体拘束をしないケア」を実践している。今年度より委員会を設置し、隔月の会議を行っている。メンバーは運営推進会議参加者及び管理者・職員で構成する。会議での内容は職員会議にて報告し、職員で共有している。	運営推進委員会メンバーも構成員である身体拘束廃止会議参加者には、「拘束と制度」の説明や事業所の状況と事例の説明等、現状も伝える機会とされています。職員の意識が変わり、事業所の姿勢を地域でも共有する様子が窺えました。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等を事業所の会議にて報告し、高齢者虐待防止関連法について研修内容を共有することで、虐待防止に取り組んでいる。		

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にできるだけ参加し、ホーム内での会議などで研修会の伝達を行い、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービスについての説明を専門用語を使い分かりやすく説明する。又、不安や疑問等がある場合はいつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪時には、必ず声かけを行い、なんでも言えるよう、日頃から情報交換を行っている。家族会等において要望等について話し合う場を設けている。	家族の面会はよく見られ、入居者に対する家族の関わりも大きい。職員から家族への声掛けや意見の出しやすい環境作りにも配慮している。職員間では「入居者の言葉に対してきちんと向き合い答える」が徹底されており、情報の共有、運営・ケアへの反映を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングなどをを行い、意見・要望等を聞いている。日頃から現場でも不安、苦情等が言える雰囲気作りを心掛けている。	毎月のミーティングで職員の意見・要望等を出している。会議ではケアに関する事項も話し合い、入居者に対する姿勢や向き合い方等、統一したケアに向け意見を出し合っている。職員は日常的に管理者と話す機会を持ち、会議だけでなく業務中にも意見・要望を述べることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談をし、職員の考え方、利用者の方への思い等を聞き、個々の役割を持つことで仕事への意欲向上を図っている。人事考課を行い、職員に応じたポジションを用意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人勉強会等や外部研修などに出来る限り多くのスタッフが学習できる環境づくりを行っている。働きながらも助言しやすい環境づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている取り組みをしている	ブロック会等、また研修会等、他の事業所の職員の方と交流し、情報交換など、定期的に参加し、サービス介の向上に努めている。		

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に何度か面会など時間を作っていただき、本人の思いや不安を受け止め、安心されるような関係づくり、なじみの関係になれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がいつでも相談できるような環境作り、関係作りに努めている。スタッフ全員対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族と話し合い「その時」まず必要としている支援を見極め提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員を介護する一方の立場に置かず、ともに支え合う家族のような関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と生活をご家族様に伝え、時には相談し、共に利用者本人を支えていく関係性を築いている。協力も多々あり、面会も多くみられている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方を通し、知人やなじみの方も面会にきていただいている。また利用者本人の要望でなじみの場所なじみの人に会いたい時は外出支援を行っている。	何より家族との関係を大切に、家族を通じての以前からのお付き合いも継続している。家族との外出・外食・通院等もよく見られる。日が浅い入居者もあり、入居者同士の声掛けや関わりも出来ており、入居後の新たな関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を十分に把握し、孤立させないようにスタッフが間に入り話題を提供している。互いに支えあうような支援に努めている。		

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、面会に行き今までの関係を維持している。定期的に電話や来訪いつでも相談できるような関係性をためているよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の要望、意向を把握し努めている。困難な場合は、表情、言動、環境などから思いや意向など近づけるよう本人本位に検討している。	入居者の日頃の関わり・寄り添いから、また入居者に対し真摯に向き合うことで希望・意向の把握を行っている。合わせて家族等からの情報収集にも努め、本人本位のケアができるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、ご家族、知人関係者から情報を収集しなじみの暮らし方生活環境、サービス利用の経過等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりその人の個人のペースに合わせ生活リズムを把握し個人に合わせた支援を行っている。有する力の現状把握をスタッフ間の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で思いや意見等を聞き、利用者本人、ご家族、関係者と話し合い、ご本人にとってより良いケアを見だし介護計画を作成しモニタリングも行っている。	日頃の関わりで把握している意向を取り入れ、また職員会議や日頃のケアで得た入居者の状況等も取り入れ介護計画を作成し、行っている。半年毎に評価、年1回以上の見直しを行い、状況により都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄など日々の身体状況の把握をし記入している。ケアの実践、結果など個別に記録し申し送りなどによりスタッフ全員共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人やご家族の状況に合わせ必要な時病院受診、買い物支援を行っている。その時の利用者の状態に合わせ個別で外出支援を行っている。		

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方より情報提供していただき、意見交換の場持ち、利用者に安心安全な暮らしが提供できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携を密に行い、家族の方にも情報提供を行い、利用者、家族様の意向を第一に考え支援している。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。隣接する法人の医院を希望される場合は月1回の往診がなされ、緊急時の対応も可能である。その他専門医等は家族の協力も得ながら職員の通院介助も行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の状態などの情報提供を行っている。看護職も医療との連携を取り適切な医療ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報提供を行い、入院中も利用者の状態を把握できるように、満開など多く行い、担当医と話し合う機会をもちホームで対応可能な段階で退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	スタッフが入居者に対して、不安なことやケアなど意見交換、ミーティングを行っている。体調の変化時など随時家族に情報提供を行い意向を確認している。運営推進会議を通し地域の方にも情報提供を行っている。	入居時に入居者・家族に対し重度化の際の説明を行っている。その時を迎えた際には、現状病院等への移行もある。都度家族・医療機関・事業所で話し合いを重ね、意向を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、マニュアル等の確認を行い、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時マニュアルを作成し避難場所や避難経路を職員で共有し、地域の協力体制にて年1回は協力を依頼し避難訓練を行っている。	従来、地域住民や消防署の協力もあり、災害時の訓練を行っている。一昨年の熊本地震以来マニュアルを整備し、また危険個所の点検等、経験を活かした訓練、職員間の共有を重ねている。	

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応ができていないか確認するため、職員個々の関わりをミーティング等にて話し合い、助言しあっている。	入居者に対して敬意を持ち接している。特にトイレ誘導時の小声での声掛け等は職員間で徹底しており、それぞれの場面・入居者の様子に合わせた対応を職員間で話し合い、共有している。	「笑顔・やさしさ・おもいやり」の理念が徹底されており、事業所の職員面談の際も人格尊重やプライバシーについての確認を重点課題としているため、利用者にきちんと向き合い、全てにおいて人として接する様子が窺えました。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者に合わせた声かけを行い、その中でも意思表示困難な方には行動、表情の観察を行いその方に合わせた決定の場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のリズムに合わせた生活を送っていただく。起床、就寝時や食事の時間を特に定めず起床されない場合も無理強いをしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を活用し、外出が難しい方でも安心して身だしなみを整えられるよう支援している。また馴染みの理美容院がある方はホームより送迎を行い希望に合わせたカットマ等をしてもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理食後の茶碗洗い等、個々のレベルに合わせて行ってもらう、一人ひとりの活躍の場となっている。共同作業が困難な利用者は御飯が炊ける匂い、食材をまな板で切る音を食事としての楽しみをしている。作業ができなくても食事作りはグループホームでは重要である。	グループホームでの食事作りが大切なものという考えが設立以降継続している。食事作りから片付けまで、入居者それぞれの「出来る事」による参加がある。職員と入居者で作った食事は職員も入居者と共に食卓を囲み、話題を共有している。	訪問時は入居者による餃子包みが賑やかに行われており、参加できない入居者へは職員の声掛けや見守りで食事作りへの参加が感じられました。食事を大切にまた楽しむ考えを継続されることに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節感のある食材を使った調理を心掛けており、また入居者の好みを把握し、できるだけ温かいものを提供することにより食事に対する意欲の向上を図っている。水分量は表に記入し、入居者の状況を理解し、補水に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは行っている。その方の状況に合わせて自分で出来る方には手助け見守りを行い、難しい方には説明をしながら介助等を行っている。		

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所がわかりやすいように表示すると共に、排泄チェック表を利用し、排泄パターンを合把握し、その方に合わせた声かけ誘導等を行っている。	自立に向けた支援が行われており、日頃から排泄チェック表の利用や入居者のサインを見逃さないことにより、日中はほとんどの入居者がトイレでの排泄を目指している。夜間は入居者の状況に合わせて対応している。	居室に設置するポータブルトイレには使用しない日中に布を掛けたり、誘導時の声掛け方法等、それぞれへの配慮も見られ、入居者への尊重が日頃からされている様子も窺えました。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給に気遣い日頃から体操など体を動かしていただいている。便秘がある方に関しては医師の指示に従い下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調を考慮し、利用者の希望を確認している。ほとんどの利用者が楽しみにしていただいている。	基本的に週3回程度午前中から入浴が可能であり、体調・希望を考慮した対応を行っている。職員は入浴中の入居者の様子も十分確認し、職員間での情報共有を行っている。汚染時には清拭・シャワー等も利用し、清潔保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体調を考慮し、無理なく活動を促し夜間はゆっくり休んでいただけるよう努めている。眠れない時は、職員が出来る限り話し相手になり飲み物などを提供し、安心して休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬等のファイルを作成し、職員全員が作用、用法、用量等を確認できるようにしている。誤認防止のため薬入れ袋の工夫を行い名前の確認と服用したことの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や手伝いなど役割を見つけ力が発揮できる環境作りをしている。買い物等外出など気晴らし気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員同行で施設周辺の散歩などは随時行っていただいている。利用者本人の希望は概ね家族の方が対応して下さり、外出支援もしていただいている。	家族協力がよく見られ、家族との日常的な外出・外食もある。事業所で飼っている犬との散歩や入居者と職員での散歩も日々ある。隣接する店舗も複数あるため希望による買い物や、暖かい時間には外でお茶を楽しむ等も日常的に行っている。	

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は一人一人のお金を管理簿を作成し、事業所で管理している。本人の希望にできるかぎり沿い、買い物に同行するなどして、自らのお金を自らの意思で使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は日中利用者の家族に対し自由にかけただけのようにしている。手紙については年賀状等が届いた方にはお渡しして利用者本人の希望があれば返事を書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に季節の飾りつけを作成。段差や躓きそうな障害物を排除し、休憩用の椅子を多数準備し、自由に動き回れるような空間作りに配慮している。また直射日光が利用者に当たらないように等あらゆる刺激の排除に努めている。	一軒家を思わせる事業所内は広々としており、清掃が行き届いている。いたる所にソファや椅子が置かれ、思い思いに過ごすことができる。テレビが置かれている畳コーナーで過ごす入居者の様子は自宅そのものである。犬・猫も飼われており、入居者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内での移動を出来るだけ制限しないよう家具を配置し、またくつろげるスペースを和室、談話室、ホール、廊下のソファと設置し一人でも多数でも落ち着いて過ごされる居場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者宅より利用者本人や家族の写真を借りて壁に飾ったり、利用者本人が使用していた家具を配置したり馴染みのものに囲まれ居心地よく過ごせるようにしている。	畳敷きの居室には洗面台が設置されている。家族の関わりも感じられ、以前から使い慣れた鏡台や家具の持ち込みもある。ベッドからの転倒についての配慮を工夫する等、職員の対応により心地よくかつ安全な生活が送られる様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ひとりひとりの生活歴・趣向に応じてできる役割を見だし、力を発揮していただけるようミーティング等で話し合い、できる限り自立した生活を充実感を持って送っていただくよう工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホーム日々

作成日 平成30年12月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	(身体拘束をしないケアの実践) 拘束をしないケアを実践しているが、グレーゾーンの不適切ケアについて職員間での情報の共有が不十分である	職員間で情報を共有し、不適切ケアをしない支援を行う	申し送りノートや、会議を活用し個々のケア方法を統一する	1 2 ヶ月
2	29	(地域資源との協働) 近隣住民への理解と連携体制の構築がいまだ不十分である	地域の方がホームへ気軽に立ち寄れる環境を整える	地域の行事への参加、ホームの行事への参加を呼び掛ける敷地内にテーブルや椅子を設け近隣の人が気軽に立ち寄れる環境を整える	1 2 ヶ月
3	35	(災害対策) 咄嗟的な災害に対する対応が不十分である	災害時にどのような場面でも対応できる体制を作る	備蓄担当者を決め、消費期限などを確認する。非常時の必要物品を確保確認。 災害マニュアルのスタッフ間共有。 地域の状況に応じ炊き出しを提供できるような体制を作る。	1 2 ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。